



公益財団法人SAJ
SAJ Farm 通信
2010年 vol.5

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

初のお米作りの結果は…

今回の SAJ Farm 通信では、SAJ Farm の初チャレンジとなったお米作りについてまずお話ししたいと思います。この通信でも何度かお話ししているように、今年度の7月22日、「夢追う子どもたちの家」の77人の子どもたちと、日本から来てくれた渡邊代表理事と共にこの SAJ Farm で田植えを行いました。

この田植えを行った田んぼも、11月に入りそろそろ穂が出る時期を向かえ、その結果が明らかになりました。この SAJ Farm の初チャレンジとなったお米作りの結果は、残念ながら、成功したとはいいいがたい状況になってしまいました。

田植えを行ってから、約3ヶ月後の10月中旬、この地域では約1週間強い雨が断続的に降り続けました。最初の数日で、田んぼの横にある小さな川の水は、SAJ Farm の田んぼまで流れ込んできました。その結果、田んぼ5枚全てが灌水してしまい、稲が見えないほどに水であふれていました。

この光景を見て、どうすればいいのか戸惑うものの、何も為すすべはありませんでした。その後、徐々に水は引いていきましたが、約5日間、稲は水面下に没していました。

そして、この洪水により、子どもたちと田植えを行った田んぼ4枚の内2枚と約半分の稲が枯れてしまいました。また、農場職員が直播栽培で育てていた1枚の田んぼの稲も枯れてしまいました。無事に生き残ってくれていたのは、栄養を十分に摂取し順調に生育を続けていた田んぼだけです。田んぼ全5枚の内、2枚だけという結果です。この田んぼ2枚については12月の中旬に収穫ができるようになると予測されます。今回のお米作りは厳しい結果になりました。「失敗」です。

このお米作りを含め、大豆等の畑作物の生産もうまくいきませんでした。カンボジアで農場を始めての初年度、SAJ Farm は苦戦しています。

このような現状の中、先日、渡邊代表理事の SAJ Farm の視察が行われ、厳しい指摘やこれからの事業進行にあたってのアドバイスをいただきました。

もちろんこのままで終わらせるわけには行きません。今回の「失敗」をしっかりと受けとめ、原因を追求し改善を続けます。やるべきことをしっかりやりきり、実験と検証を繰り返し、必ず今回の「失敗」を次期の「成功」へとつなげる覚悟です。



水害で半分が枯れてしまった田んぼ

SAJ Farm設計図の完成



農場設計図の話し合い

代わって明るいニュースを一つお話しします。

10月下旬から11月上旬にかけて、その道のプロと呼ばれる方々が様々な国から次々にSAJ Farmに視察に来てくださいました。

その顔ぶれを少し紹介しますと、シンガポールからは大手農機具メーカーの機械のプロ、日本からはお米作りのプロ、マレーシアからはこれまた養殖(魚)のプロで大学の先生、そしてタイからはお米から野菜、はたまた農場作りまでこなす農業全般にわたるプロと多種多様な方々がいらっしゃって下さいました。

そして、そのプロの方々とは農場の視察をしていただき、その専門についてのお話もさることながら、この農場をどういった農場にしていくか、そのためにどんな機能・設備を備えるか、そしてそれらを具体化したこの農場の設計図に関する話し合いを行いました。

こうして一連のプロの視察を終え、このSAJ Farmを理想の研修農場にすべく、そのビジョンとしての農場の設計図が決まりました。有機の循環型研修農場として、水田、畑、養殖池・貯水池、鶏・豚小屋、研修施設・倉庫等を備えること、またこの各々のプロフィットセンターの規模、配置場所等が明らかになりました。

また、この研修農場の中には、渡邊代表理事が方々でお話ししているニューセオリーという1haの小規模農場モデルも組み込まれます。これは、農場の全体の30%を水田、30%を畑・果樹、30%を養殖池・貯水池、残り10%を家畜小屋と人の住居に分け、その中で一家族5~6名が生活できるというモデルです。

実際には、SAJ Farmの農場に合わせて若干各々のプロフィットセンターの比率は変えておりますが、1haの農地で、一家族が自給することができて、しかも余剰生産を販売することができるというモデルを作っていきます。

この理想の研修農場作りにあたって、既に私たちは土木業者等との交渉を進めています。12月中に細かい点をさらに話し合い、早ければ来年の1、2月に池の採掘作業や水田作り等の農場整備の工事が始まります。

来年3月のSAJツアーでは、見学者様に農場としてお楽しみいただけるよう、スピード感を持ちながら事業を前進していきます。

編集後記

悔しいですが、今回は「失敗」です。スタッフの意識等含め問題点を改善し、なにがなんでも次期の「成功」を掴みます。皆様からの応援を必ずカンボジアの幸せにつなげます。(五月女)